

自著『政治家の覚悟』からの削除問題が照射する菅首相の本質

望月 衣塑子

都合よく解釈やルールを変え 一方的な言い分を押し通す

菅義偉首相の自著『政治家の覚悟』の改訂版から「都合の悪い部分が削除された」と話題になっている。菅義偉首相の自著『政治家の覚悟』の改訂版から「都合の悪い部分が削除された」と話題になっている。菅義偉首相の自著『政治家の覚悟』の改訂版から「都合の悪い部分が削除された」と話題になっている。

菅義偉首相が野党時代の2012年に刊行した単行本『政治家の覚悟』(文藝春秋)の改訂版(文春新書)が10月20日に発売された。驚いたことに、(政府があらゆる記録を克明に残すのは当然)と公文書管理の重要性を訴えたり、民主党政権による政治的発言への弾圧を(自分たちに都合の悪い発言を封じようという意図が感じられま

す)と批判したりしていた二つの章が丸々、削除されていた。首相の座について今の自分にとって、よほど具合が悪かったのだろうか。皮肉なことに、わざわざ削ったがゆえに「都合の悪い発言は封殺」「記録に残さない」という菅首相の政治スタンスがくつきりと映し出された格好だ。

番記者への嫌がらせ

さほど読まれることがなかった本書は、5年後に注目されることになる。「朝日新聞」の南彰記者が17年8月8日午前の菅官房長官

10月26日、衆議院本会議で初めての所信表明演説をする菅義偉首相。近年の約30年間は政権交代があった場合を除き、首相指名から間を空けずにほとんど実施されており、1カ月以上の「先送り」は異例だ。説明責任を果たそうとしない姿勢がここにも現れている。(提供/ロイター・アフロ)

(当時)会見で、加計学園問題についての質問で本書の記述に触れたためだ。当時の官房長官会見は、私や南記者「ジャパンタイムズ」の吉田玲滋記者が加計学園や森友問題をめぐって厳しい質問を何問もぶつけていた。

南記者の質問は、国家戦略特区ワーキンググループ座長だった八田達夫氏が、加計学園側の発言について「議事録には今後も載せない」と述べたことを受けたものだ。以下、やりとりを再録する。読みやすくするため、口語表現や重複を一部省略した。

【南記者】歴代、特に保守の政治家は、歴史的検証に耐えられるように公文書の管理にはかなり力を入れてこられたと思うなかで、ある政治家も「政府があらゆる記録を国民に残すのは当然で、議事録というのはその最も基本的な資料で、その作成を怠ったことは国民への背信行為だ」とおっしゃられ



菅義偉首相の著書『政治家の覚悟』の単行本(右)と内容が一部削除された新書版。(撮影/編集部)

ているんですけど、その発言をしていた本人、記されていたのはどなたか。官房長官、ご存じですか。

【菅官房長官】知りません。

【南記者】これ、官房長官の著作に書かれているのですが、かつて、2012年に書かれた著作に表明されていた見解と今、政府で現状起きているところと照らし合わせると(中略)、きっちり記録に残すべきだという、そういうお気持ちにはならないのでしょうか。

【菅官房長官】私は残していると思いますよ。ワーキンググループ



削除されたのは(第三章 政治主導をはき違えた民主党政権)と(第四章 東日本大震災で露呈した政府の機能不全)の計2章。うち第四章では、東日本大震災への